



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 II IV V 】
2 実施対象者	白石市立東中学校 全校生徒321名 11学級
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名(オリンピック・パラリンピックセミナー『新体操ベラルーシ代表チームを応援しよう!』)</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>①身近な地域社会や我が国の伝統文化等についての理解と愛情を深めさせると共に、ベラルーシへの理解と尊敬の念を培う。『もとめる』</p> <p>②オリンピック代表チームの活動を知ること、マイナースポーツ(本企画では新体操)に対する理解を深める。『かかわる』</p>
5 取組内容	<p>全体の流れ(司会：生徒会執行部)</p> <p>(1) 開会宣言</p> <p>(2) 開会のあいさつ 東中学校 校長 永山 晋</p> <p>(3) ベラルーシの紹介 ベラルーシ新体操代表チーム</p>  <p>新体操ベラルーシ代表チームから、ふるさとベラルーシ共和国の紹介(言語、風土、生活等)をしていただいた。</p>

	<p>(4) 東中生に伝えたいこと ベラルーシ新体操代表チーム  また、代表チームのメンバーから、新体操との出会いや活動するに至った経緯、苦労したことや学んだことなど、トップアスリートならではの体験談を交えて、東中学校の生徒に伝えていただいた。</p>  <p>(5) 東中学校生徒全員によるエール 東中学校応援団  ベラルーシ代表チームへのお礼として、東京オリンピックでの新体操ベラルーシ代表の活躍を祈念し、東中学校生徒全員によるエールを送った。</p>  <p>(5) お礼の言葉 東中学校生徒会執行部  (6) 閉会宣言</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>世界で活躍し、白石文化体育施設ホワイトキューブを拠点に事前合宿を行っている女子新体操ベラルーシ代表チームのトップアスリートと本校生徒が交流を持つことで、オリンピック・パラリンピックに参加することの意義や考え方について知るとともに、ベラルーシ共和国や代表選手について理解を深め、生徒達は以前よりもずっと身近に感じることができたようである。</p>
<p>7 実践において工夫した点  (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピックという大舞台で活躍している代表選手に対し、生徒会が中心となり、進行や質問を行うことで、選手やベラルーシ共和国を身近に感じることができるようにしたこと。</li> <li>・代表選手の学生時代の生活や本校生徒への助言などをいただき、生徒それぞれの志を高める一助となるようにしたこと(志教育)。</li> <li>・生徒会を中心に、日本独自の応援スタイルを示すことで、生徒のおもてなしの心を育むとともに、相手にもおもてなしの心や日本の文化を理解していただくようにしたこと。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<p>代表選手団の気持ちを直接聞くことはなかったが、関わる時間的な面や、関係者御一行の一連の対応をみると、あまり好意的には感じていない(ガードが堅い・接しにくい)ようだった。それが、トップ選手とただの中学生との関係の隔たりなのか、日本とベラルーシという国の関係なのか分からないが、交流するには一層深い互いの理解が必要であると感じた。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>同様の大きな事業を行う予定はないが、適宜、ベラルーシ共和国に対するニュースや代表選手の動向に関する情報を知らせ、いつも身近に感じさせるようにしていく。</p>